

第3号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 〒210-0866
 住 所 川崎市川崎区水江町4-3
 氏 名 日東亜鉛株式会社
 代表取締役社長 本野晃司

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第10条第1項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	日東亜鉛株式会社		
主たる事務所 又は事業所の所在地	川崎市川崎区水江町4-3		
該当する事業者 の要	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者 (任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	E	製造業
	中分類	23	非鉄金属製造業
主たる事業 の内容	鋼管・鋼構造物に対する溶融亜鉛めっき業		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量	2,654	k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t -CO ₂

(第2面)

計画期間及び報告年度	平成 28 年度 ～ 30 年度 (報告年度 30 年度分)
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第2号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第2号のとおり
備 考	

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
- 2 口のある欄は、該当する口内にレ印を記載してください。
- 3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
- 4 ※印の欄は記入しないでください。
- 5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策結果報告

1 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況 (第1号、第2号、第4号該当者等)

(1) 温室効果ガスの排出の量の状況 (排出係数固定)

ア 計画期間の温室効果ガスの排出の量

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標排出量
排出量	(実) 5,275 t-CO ₂ (調) 5,259 t-CO ₂	(実) 5,317 t-CO ₂ (調) 5,300 t-CO ₂	(実) 5,363 t-CO ₂ (調) 5,346 t-CO ₂	(実) 5,449 t-CO ₂ (調) 5,430 t-CO ₂	(実) 5,117 t-CO ₂ (調) 5,101 t-CO ₂
削減率		(実) -0.8 % (調) -0.8 %	(実) -1.7 % (調) -1.7 %	(実) -3.3 % (調) -3.3 %	(実) 3.0 % (調) 3.0 %

イ 計画期間の温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値

原単位の 活動量	生産数量		単位	t-CO ₂ /1000t	
	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標年度の値
排出量 原単位等の値	140.7	157.7	154.5	147.2	136.4
削減率		-12.1 %	-9.8 %	-4.6 %	3.0 %

ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況についての説明

第1年度	製品の一部が多品種、小ロットとなり生産準備等の待ち時間が増えた。生産効率向上を図るために、前処理槽の設定温度を上げた。そのため予想以上に原燃料を使い、温室効果ガスの排出量が上がったと考えられる。
第2年度	昨年と同様に製品の一部が多品種、小ロットとなり生産準備等の待ち時間が多く、それを取り戻すべく生産効率向上を図るために、前処理槽の設定温度を上げた。処理液を加温する時間をなるべく短くなるように設定したが、思ったほど削減できなかった。
第3年度	昨年と同様に製品の一部が多品種、小ロットとなり生産準備等の待ち時間が多く、それを取り戻すべく生産効率向上を図るために、前処理槽の設定温度を上げた。処理液を加温する時間をなるべく短くなるように設定したが、思ったほど削減できなかった。1.2.3年度とも分母となる生産量の減少幅が大きく、原単位の削減ができなかった。

(2) 温室効果ガスの排出の量の状況 (全社目標)

--

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成するための措置の実施状況

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減のための措置の実施状況

事業所等 (第1号、第2号、第4号該当者等)	計 画	事務所・厚生棟のエアコンを高効率型のエアコンに交換。 生産ラインの照明にLEDを導入。 蒸気使用量の低減化を図る。
	第1年度	事務所・厚生棟のエアコンを高効率型のエアコンに交換した。 製造現場の照明を水銀灯からLEDに変える予定。(H29.5)
	第2年度	製造現場の照明を一部水銀灯からLEDに切り替えた。(H29.05) 前処理液の加温時間を極力短くした。(H29.12)
	第3年度	排水場の使用電力削減を実施した。(H30.9) 製造現場の照明のLED化を進めた。(H30.10)
自動車等 (第3号該当者等)	計 画	
	第1年度	
	第2年度	
	第3年度	

4 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

計 画	なし
第 1 年度	なし
第 2 年度	なし
第 3 年度	なし

5 その他地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

計 画	廃棄物の排出量の把握、減量化を図る。
第 1 年度	<p>廃棄物の排出量の把握を行った。</p> <p>廃棄物排出量 廃塩酸：1179 t、脱水汚泥：183 t (鍍金量：33710 t) 基準年度 廃塩酸：973 t、脱水汚泥：245 t (鍍金量：37478t)</p>
第 2 年度	<p>廃棄物の排出量の把握を行った。</p> <p>第2年度・・廃塩酸：1090t、脱水汚泥：1652t (鍍金量：34712t) 第1年度・・廃塩酸：1179 t、脱水汚泥：183 t (鍍金量：33710 t) 基準年度・・廃塩酸：973 t、脱水汚泥：245 t (鍍金量：37478t)</p>
第 3 年度	<p>廃棄物の排出量の把握を行った。</p> <p>第3年度・・廃塩酸：1112t、脱水汚泥：187t (鍍金量：37000t) 第2年度・・廃塩酸：1090t、脱水汚泥：165t (鍍金量：34712t) 第1年度・・廃塩酸：1179 t、脱水汚泥：183 t (鍍金量：33710 t) 基準年度・・廃塩酸：973 t、脱水汚泥：245 t (鍍金量：37478t)</p>

6 前年度の温室効果ガスの排出の量等の実績（排出係数反映）

(1) 事業者単位

ア 第 1 号、第 2 号、第 4 号該当者等

(実)	5,283	t-CO ₂
(調)	5,321	

イ 第 3 号該当者等

(実)		t-CO ₂
(調)		

(2) 事業所等单位（第 1 号、第 2 号該当者等）

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500kl 以上の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
日東亜鉛株式会社 川崎工場	川崎市川崎区水江町4-3			5,283 t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500kl 以上 1,500kl 未満の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

ウ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500kl 未満の事業所の一覧

エネルギー使用量の規模	事業所数
400～500kl 未満	
300～400kl 未満	
200～300kl 未満	
100～200kl 未満	
100kl 未満	

(3) 事業所等单位（第 4 号該当者等）

ア 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が 3,000 t 以上（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が 3,000 t 未満（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の数

事業所数	
------	--